

岡山県感染症週報 2015年 第24週 (6月8日～6月14日)

岡山県は「食中毒注意報」を発令しました(6月15日)

◆2015年 第24週(6/8～6/14)の感染症発生動向(届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第22週 2類感染症 結核 1名(70代 女)

第23週 2類感染症 結核 7名(20代 男 1名、30代 男 1名、40代 女 1名、
50代 女 1名、80代 男 2名・女 1名)

5類感染症 後天性免疫不全症候群 1名(20代 男)

第24週 2類感染症 結核 2名(80代 男)

3類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 1名(10代 男)

4類感染症 E型肝炎 1名(40代 女)

5類感染症 急性脳炎 1名(幼児 男)

■定点把握感染症の発生状況

○感染性胃腸炎は、県全体で358名(定点あたり6.07→6.63人)の報告があり、前週より増加しました。

○手足口病は、県全体で126名(定点あたり1.80→2.33人)の報告があり、前週より増加しました。

○伝染性紅斑は、県全体で19名(定点あたり0.13→0.35人)の報告があり、前週より増加しました。

○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で87名(定点あたり1.13→1.61人)の報告があり、前週より増加しました。

【第25週 速報】

○腸管出血性大腸菌感染症 1名(O26:高校生 男)の発生がありました。(6月18日)

1. **腸管出血性大腸菌感染症**は、第24週に1名の発生報告があり、岡山県の2015年累計報告数は5名となりました。過去10年間の同時期と比較して、患者報告数は少ない状態ですが、例年5、6月頃から徐々に増加する傾向があります。手洗いなどを徹底するとともに、食品は冷蔵庫で保存し、調理後はできるだけ速やかに食べる、食肉は中心部まで火を通すなど、通常の食中毒対策を励行し、感染予防に努めましょう。
2. **感染性胃腸炎**は、県全体で358名(定点あたり6.07→6.63人)の報告があり、前週より増加しました。地域別では、美作地域(12.17人)、備北地域(9.25人)、岡山市(7.07人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。ひきつづき手洗いの徹底や下痢便・嘔吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。県内の発生状況など、詳しくは「[感染性胃腸炎週報](#)」および岡山県感染症情報センターホームページ『[2014/2015年 感染性胃腸炎情報](#)』をご覧ください。
3. **手足口病**は、県全体で126名(定点あたり1.80→2.33人)の報告があり、前週より増加しました。地域別では、倉敷市(3.27人)、岡山市(2.71人)、備北地域(2.25人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況など、詳しくは「[今週の注目感染症](#)」をご覧ください。
4. **伝染性紅斑**は、県全体で19名(定点あたり0.13→0.35人)の報告があり、前週より増加しました。地域別では、岡山市(0.21→1.07人)で、定点あたり報告数が前週より大きく増加しています。この感染症は、ヒトパルボウイルスB19の感染によるもので、紅斑を主症状とする流行性発疹性疾患です。両頬がりんごのように赤くなることから、「りんご病」とも呼ばれています。頬に発疹が出現する7～10日前に、微熱や咳などの風邪の様な症状がみられることがあり、この時期にウイルスの排出量が最も多くなります。ウイルス排出期には特徴的な症状を示さないため、実際的な二次感染予防策はありません。しかし、妊娠中(特に妊娠初期)に感染した場合、胎児異常(胎児水腫)や流産の危険があるため、妊娠中の方は伝染性紅斑が周囲で流行している時、風邪の症状がある人に出来るだけ近づかないよう注意が必要です。
5. **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**は、県全体で87名(定点あたり1.13→1.61人)の報告があり、前週より増加しました。地域別では、真庭以外の全ての地域で発生しており、特に倉敷市(1.82→3.09人)で定点あたり報告数が前週より大きく増加しました。倉敷市、美作地域(1.67人)、岡山市(1.64人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。この感染症は、突然の発熱と体のだるさ・のどの痛みで発症し、しばしば嘔吐を伴います。また、口腔内に小点状出血あるいは莓舌(イチゴのように赤くブツブツしている舌)がみられることがあります。就学前から学童期の小児に多く報告されており、学校などで集団感染することもありますので、患者との濃厚接触を避け、手洗い・うがいを行うなど、感染予防に努めましょう。

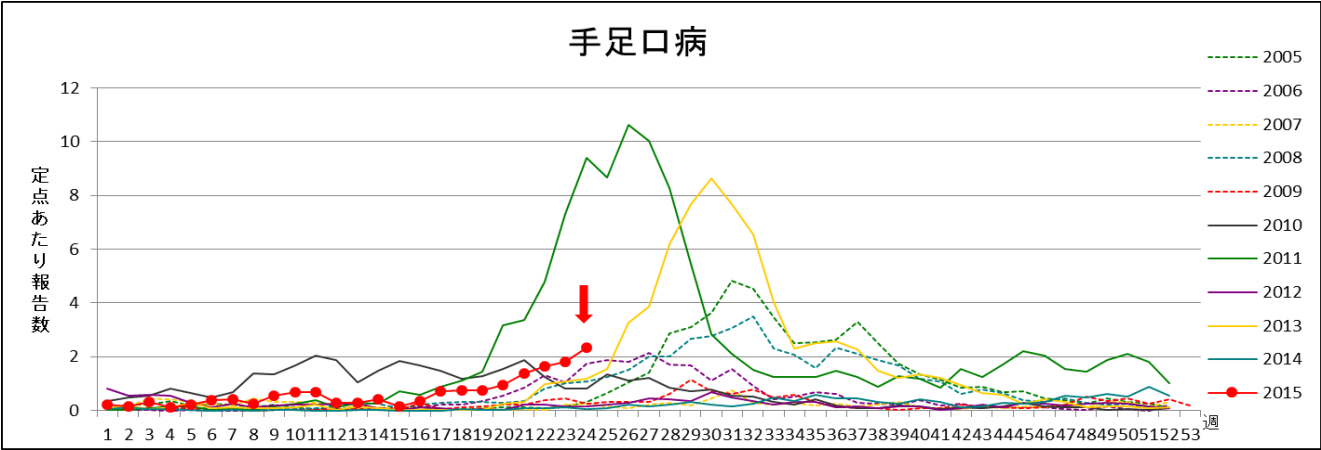
流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	↙	★	RSウイルス感染症	↗	★
咽頭結膜熱	↗	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↗	★★
感染性胃腸炎	↗	★★	水痘	↘	★
手足口病	↗	★★	伝染性紅斑	↗	★★★★
突発性発疹	↗	★	百日咳	↘	
ヘルパンギーナ	↗	★	流行性耳下腺炎	↗	★
急性出血性結膜炎	↗		流行性角結膜炎	↗	★
細菌性髄膜炎	↗		無菌性髄膜炎	↗	★★
マイコプラズマ肺炎	↗		クラミジア肺炎	↗	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	↘	* 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、2013 年第 42 週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。			

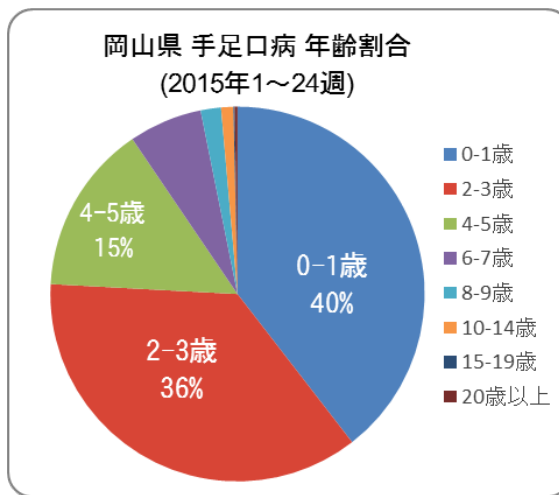
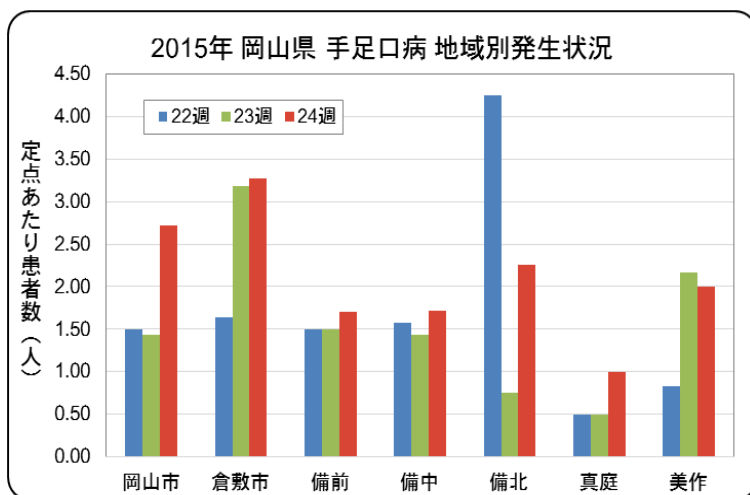
【記号の説明】 前週からの推移： ↘ : 2 倍以上の減少 ↙ : 1.1～2 倍未満の減少 → : 1.1 未満の増減
↗ : 1.1～2 倍未満の増加 ↗ : 2 倍以上の増加
発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。
空白:発生なし ★: 僅か ★★:少し ★★★:やや多い ★★★★:多い ★★★★★:非常に多い

今週の注目感染症
手足口病

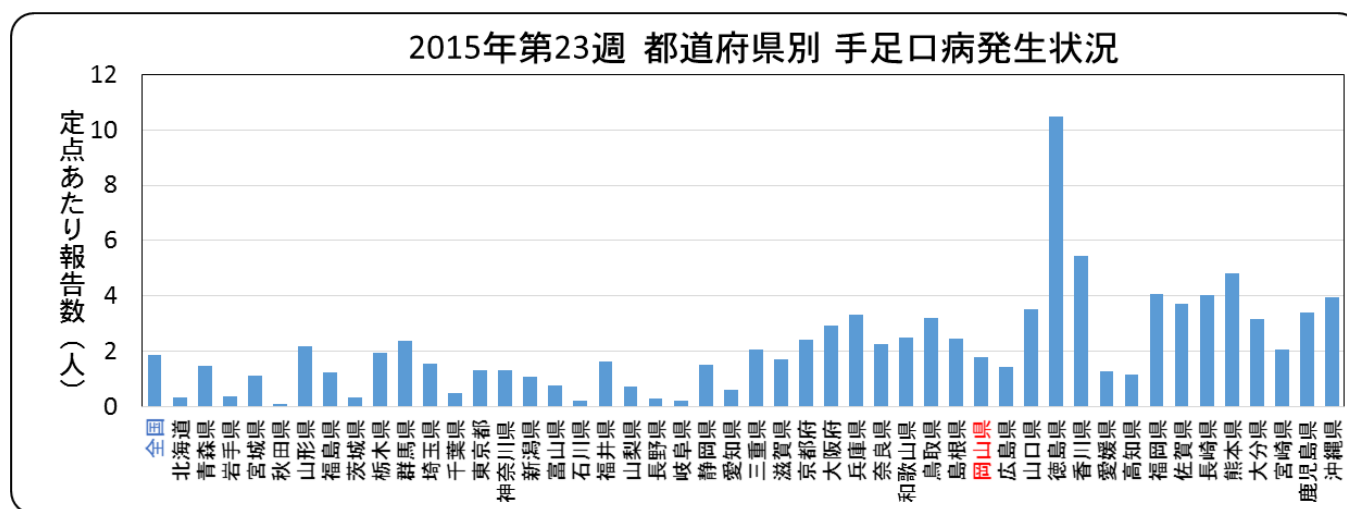
【岡山県の発生状況】



手足口病は、県全体で 126 名（定点あたり 1.80 → 2.33 人）の報告があり、第 20 週から 5 週連続で増加しています。地域別では、特に岡山市（1.43 → 2.71 人）及び備北地域（0.75 → 2.25 人）で大きく増加しており、倉敷市（3.27 人）、岡山市、備北地域の順で定点あたり報告数が多くなっています。年齢別では、3 歳以下の乳幼児が全体の 76% を占めており、5 歳以下を中心に流行しています。



【全国の発生状況】



全国の第23週の発生状況は、定点あたり1.87人で、過去10年間の同時期と比較して最も多くなっています。都道府県別では、徳島県（10.48人）、香川県（5.46人）、熊本県（4.84人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、西日本を中心に流行しています。手足口病の流行のピークは、例年、7～8月頃ですが、6月頃から患者数の増加が見られます。県内の発生状況に注意し、手洗いを行うなど感染予防に努めましょう。

[IDWR 速報データ 2015年第23週（国立感染症研究所）](#)

【手足口病とは】

夏に乳幼児を中心に流行する急性ウイルス性感染症です。コクサッキーウイルス、エンテロウイルスなどが原因となります。感染している人が、咳やくしゃみをした際に飛び散るしぶきを浴びてウイルスを吸い込む飛沫感染や、水泡の内容物や便中のウイルスが手指などを介して口の粘膜に入る接触・経口感染によって感染します。

【症状】

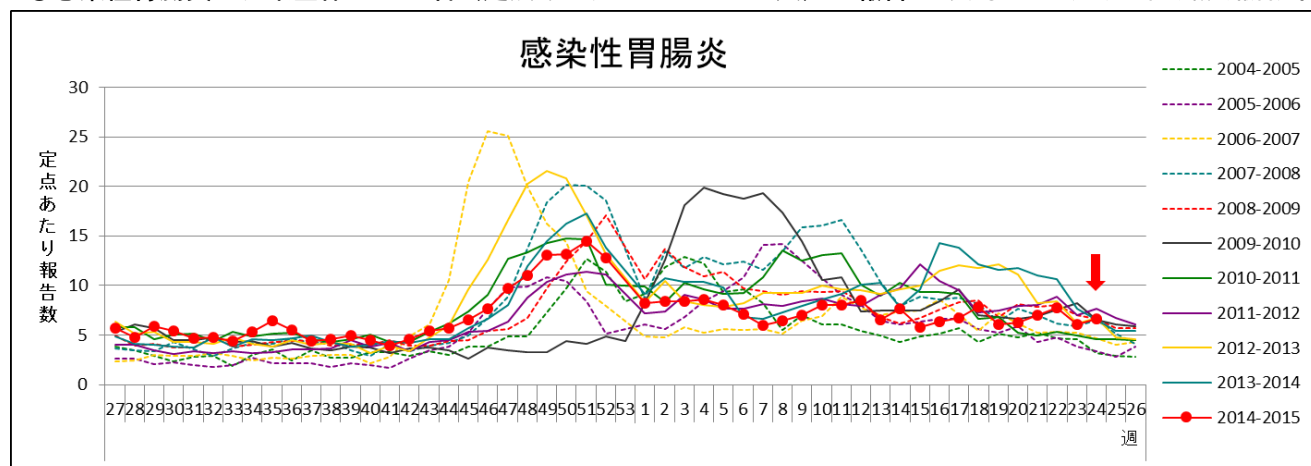
3～5日の潜伏期間の後、軽度の発熱とともに、口腔粘膜、手掌、足底や足背に2～3mmの水ほう性発疹が出現するのが特徴です。3～7日で水ほうが消え、通常予後は良好ですが、まれに髄膜炎、脳炎を起こすことがあります。特に、エンテロウイルス71型による手足口病は、中枢神経系合併症など、重症化する割合が高いと言われています。

【予防】

患者との濃厚な接触を避け、うがいや手洗い・手指の消毒を励行すること等が、有効な感染予防になります。

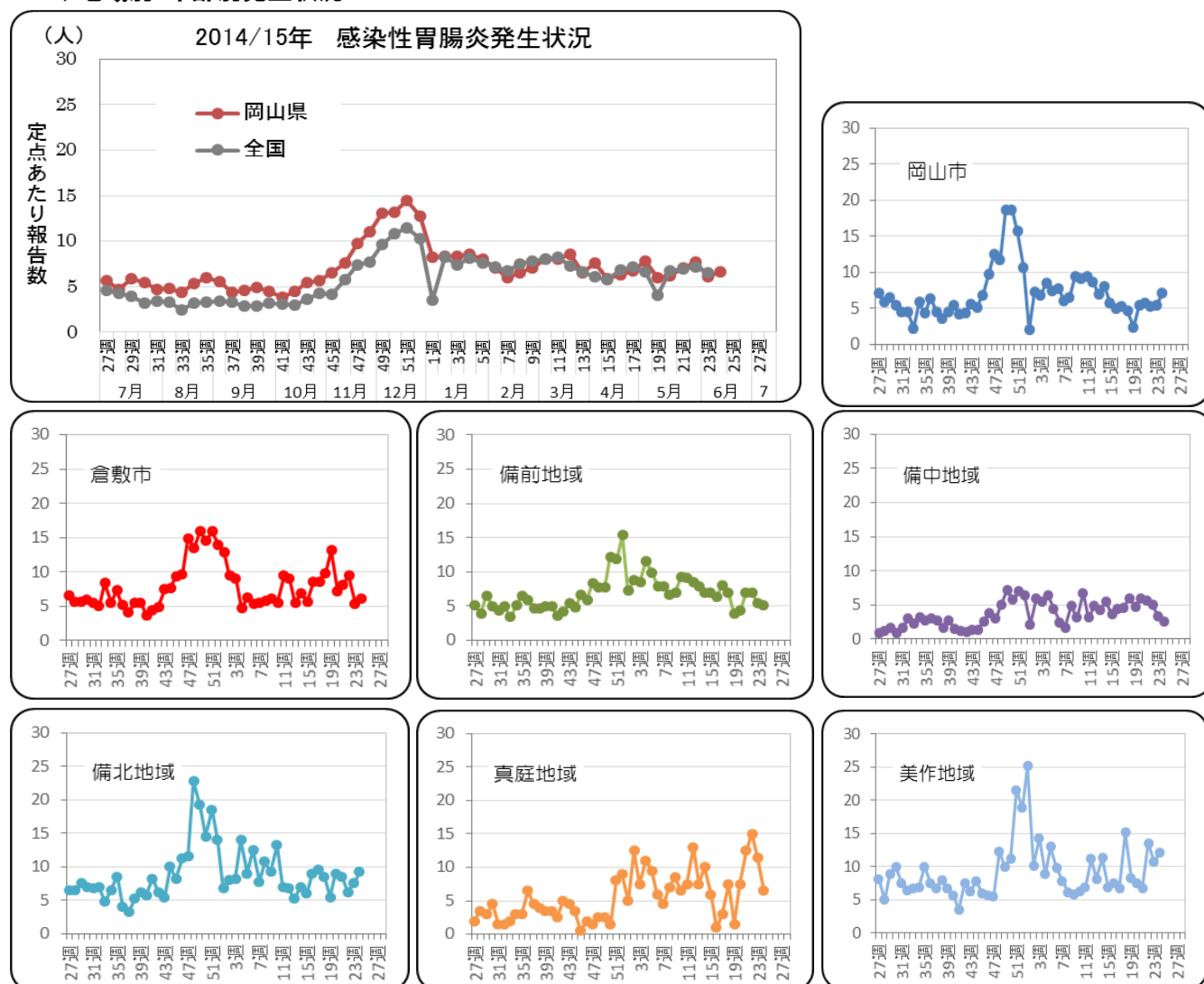
[手足口病とは（国立感染症研究所）](#)

感染性胃腸炎

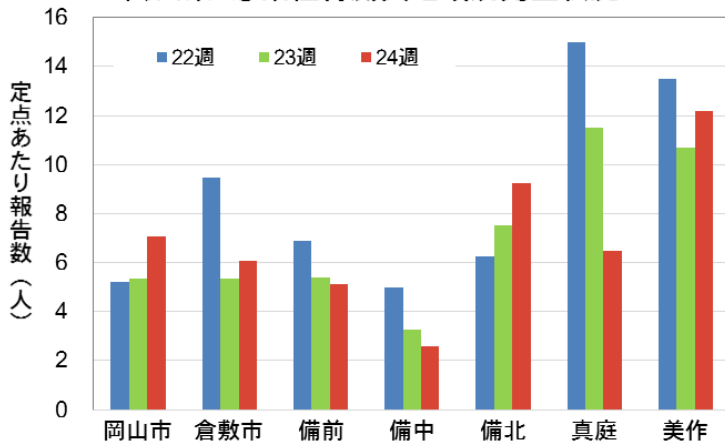


感染性胃腸炎は、県全体で 358 名（定点あたり 6.07 → 6.63 人）の報告があり、前週より増加しました。地域別では、美作地域（12.17 人）、備北地域（9.25 人）、岡山市（7.07 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。年齢別割合では、5 歳以下の乳幼児が全体の 60% を占めています。

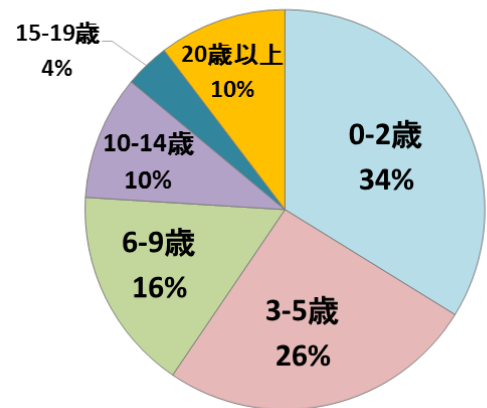
◆地域別・年齢別発生状況



岡山県 感染性胃腸炎地域別発生状況



感染性胃腸炎 第24週年齢別割合



◆◆◆ 食中毒を予防しましょう！ ◆◆◆

- 料理前・食事前・トイレの後には、手をよく洗いましょう。
- まな板・ふきんなどの調理器具は、十分に洗浄消毒しましょう。
- 生鮮食品や調理後の食品は、早めに冷蔵庫に入れましょう。
冷蔵庫に入れても、細菌はゆっくり増殖するため、冷蔵庫を過信せず、早めに食べることが大切です。
- 加熱して食べる食品は、中心部まで十分に火を通しましょう。
特に、食肉は中心部まで火を通し、生食は避けましょう。

[食中毒注意報を発令しました！（岡山県生活衛生課）](#)
[食中毒に関する情報（厚生労働省）](#)

保健所別報告患者数(定点把握) 2015年 24週

(2015/06/08～2015/06/14)

2015年6月17日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	8	0.10	2	0.09	2	0.13	1	0.07	1	0.08	—	—	2	0.67	—	—
RSウイルス感染症	1	0.02	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0.17
咽頭結膜熱	25	0.46	12	0.86	6	0.55	2	0.20	1	0.14	—	—	—	—	4	0.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	87	1.61	23	1.64	34	3.09	3	0.30	9	1.29	8	2.00	—	—	10	1.67
感染性胃腸炎	358	6.63	99	7.07	67	6.09	51	5.10	18	2.57	37	9.25	13	6.50	73	12.17
水痘	4	0.07	2	0.14	1	0.09	—	—	—	—	—	—	1	0.50	—	—
手足口病	126	2.33	38	2.71	36	3.27	17	1.70	12	1.71	9	2.25	2	1.00	12	2.00
伝染性紅斑	19	0.35	15	1.07	2	0.18	1	0.10	—	—	—	—	1	0.50	—	—
突発性発疹	24	0.44	10	0.71	4	0.36	5	0.50	2	0.29	—	—	2	1.00	1	0.17
百日咳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	20	0.37	3	0.21	7	0.64	2	0.20	7	1.00	—	—	—	—	1	0.17
流行性耳下腺炎	24	0.44	2	0.14	3	0.27	1	0.10	5	0.71	1	0.25	—	—	12	2.00
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	4	0.33	2	0.40	2	0.50	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	1	0.20	—	—	1	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(— : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数（発生レベル設定疾患）2015年 24週

（ 2015/06/08～2015/06/14 ）

2015年6月17日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	8	0.10	2	0.09	2	0.13	1	0.07	1	0.08	—	—	2	0.67	—	—
咽頭結膜熱	25	0.46	12	0.86	6	0.55	2	0.20	1	0.14	—	—	—	—	4	0.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	87	1.61	23	1.64	34	3.09	3	0.30	9	1.29	8	2.00	—	—	10	1.67
感染性胃腸炎	358	6.63	99	7.07	67	6.09	51	5.10	18	2.57	37	9.25	13	6.50	73	12.17
水痘	4	0.07	2	0.14	1	0.09	—	—	—	—	—	—	1	0.50	—	—
手足口病	126	2.33	38	2.71	36	3.27	17	1.70	12	1.71	9	2.25	2	1.00	12	2.00
伝染性紅斑	19	0.35	15	1.07	2	0.18	1	0.10	—	—	—	—	1	0.50	—	—
百日咳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	20	0.37	3	0.21	7	0.64	2	0.20	7	1.00	—	—	—	—	1	0.17
流行性耳下腺炎	24	0.44	2	0.14	3	0.27	1	0.10	5	0.71	1	0.25	—	—	12	2.00
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	4	0.33	2	0.40	2	0.50	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2、レベル3に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2015年 第24週 2015/06/08～2015/06/14)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	8	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	1	1	1	1	-	-	-	-

疾病名	合計		-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	25	-	6	7	3	6	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	87	-	-	2	6	6	9	12	7	12	8	13	9	-	-	3
感染性胃腸炎	358	5	23	50	43	32	35	25	22	17	12	8	36	13	37	
水痘	4	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-
手足口病	126	-	8	41	24	24	9	6	9	1	1	-	2	-	1	
伝染性紅斑	19	-	-	1	-	3	4	1	2	-	2	4	2	-	-	-
突発性発疹	24	-	5	14	3	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	20	-	5	3	5	1	2	-	2	-	-	1	-	-	-	1
流行性耳下腺炎	24	-	1	1	1	4	5	3	1	3	1	-	3	-	1	

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	1	-	-	-

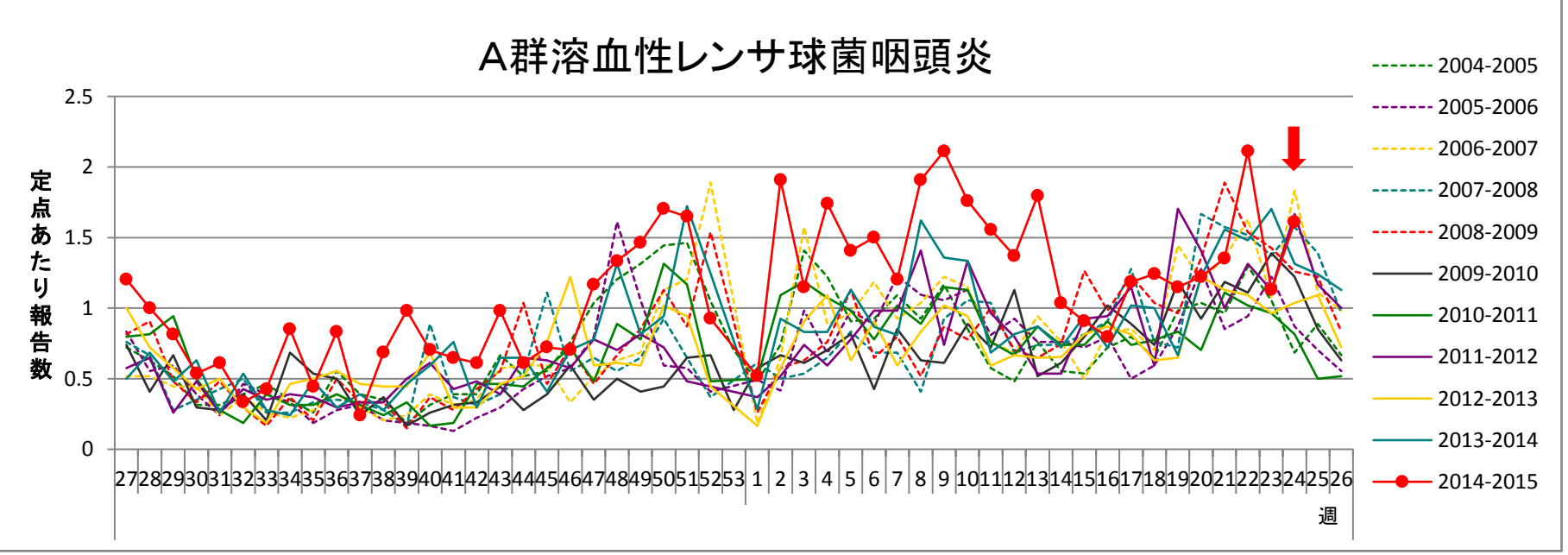
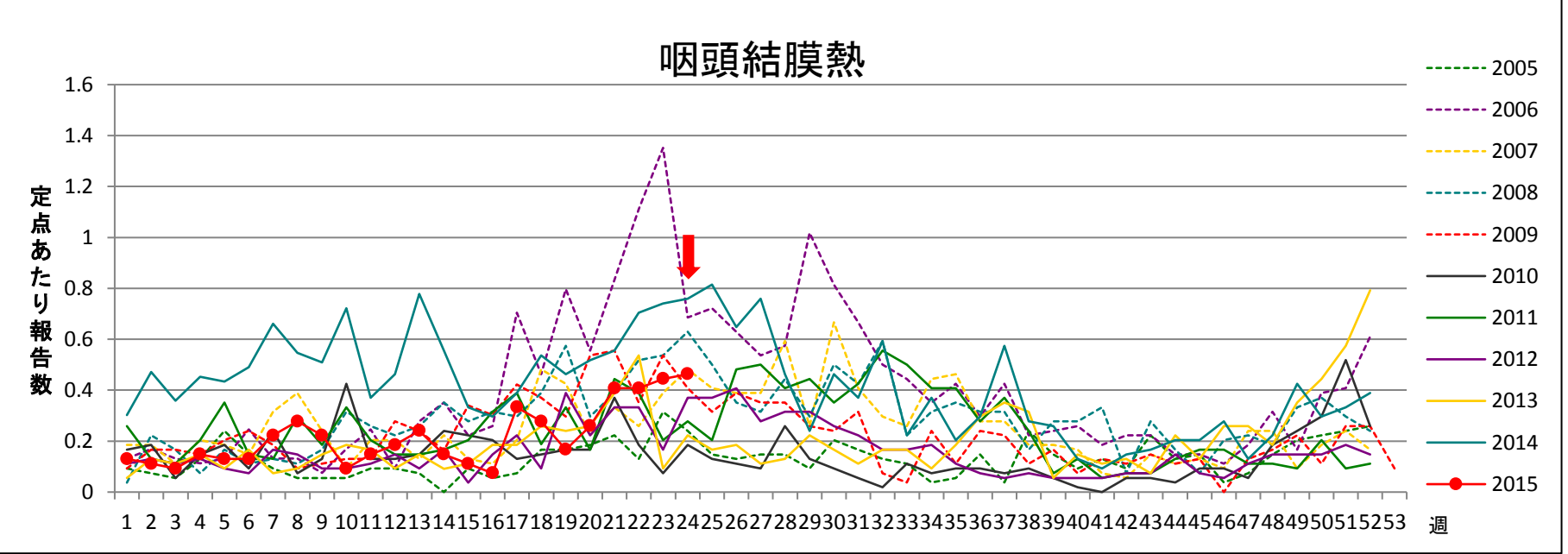
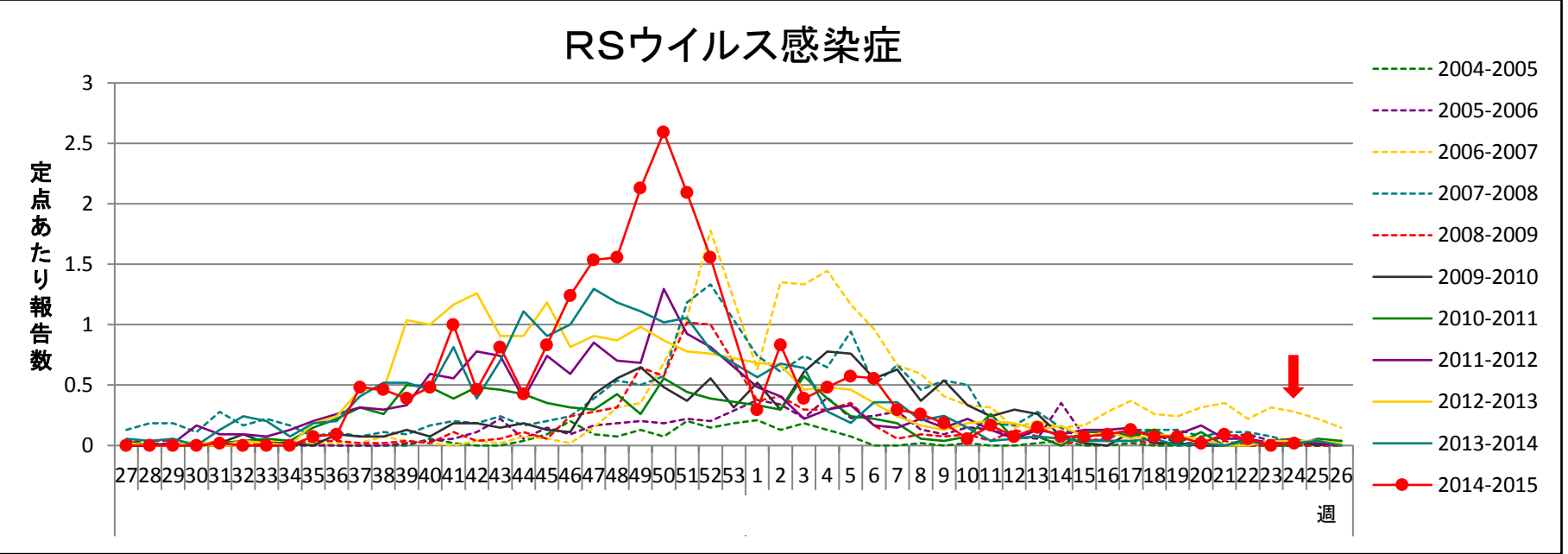
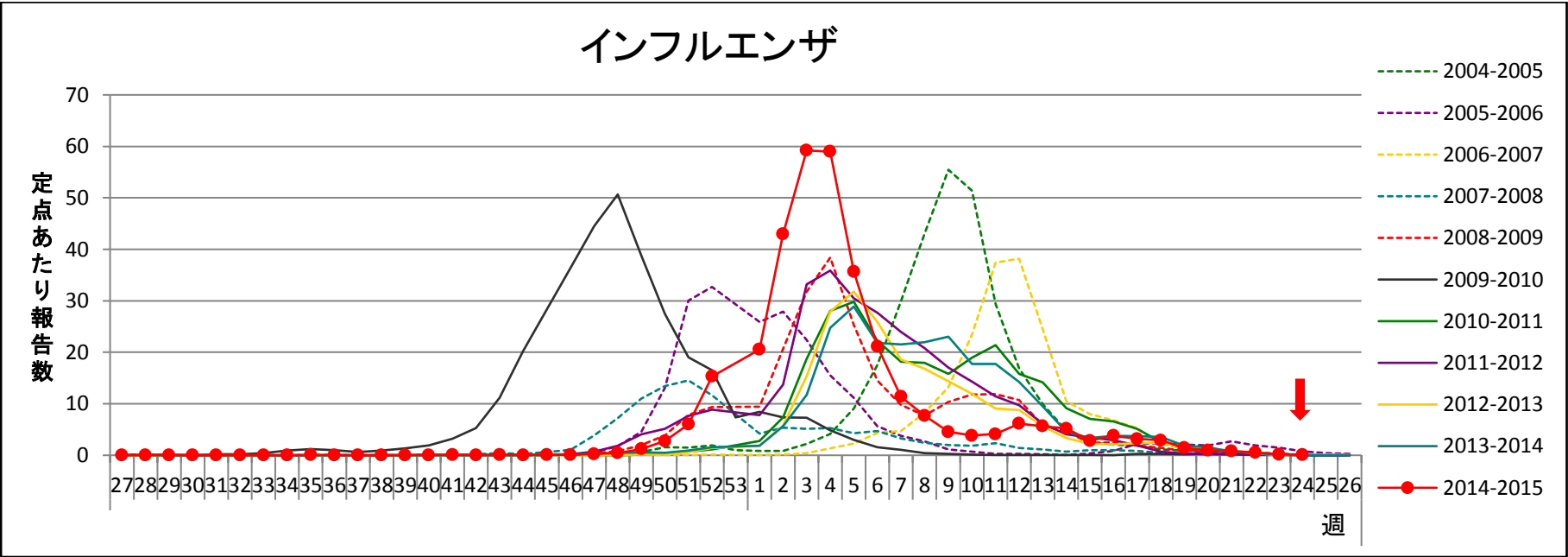
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

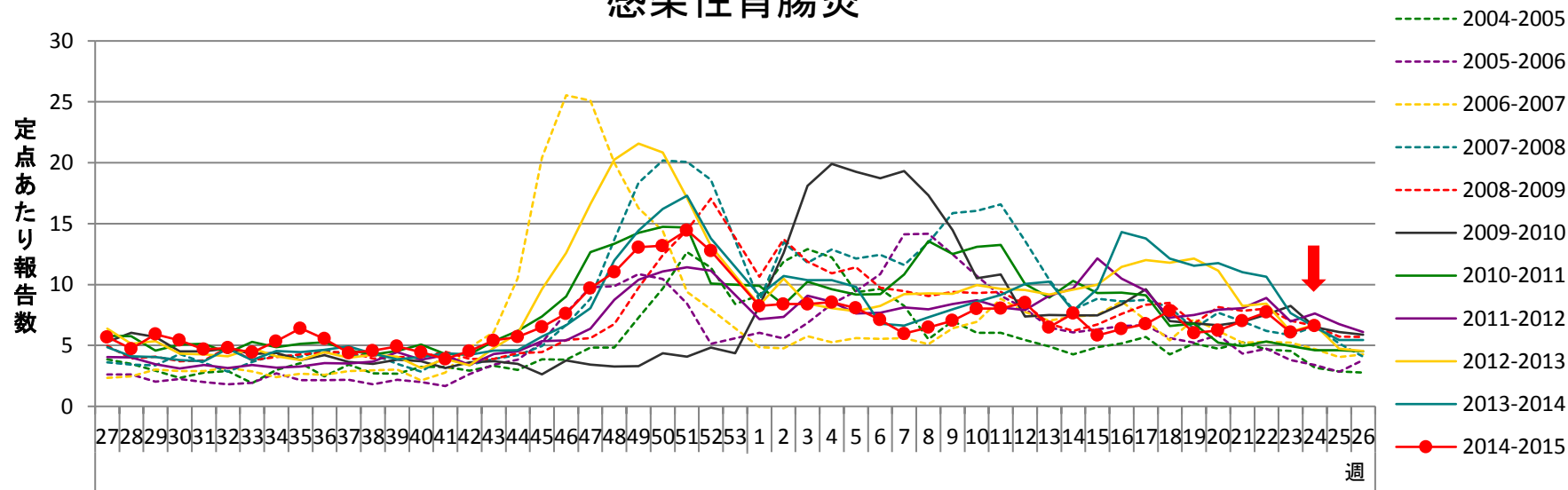
全数把握 感染症患者発生状況

2015 年 24 週

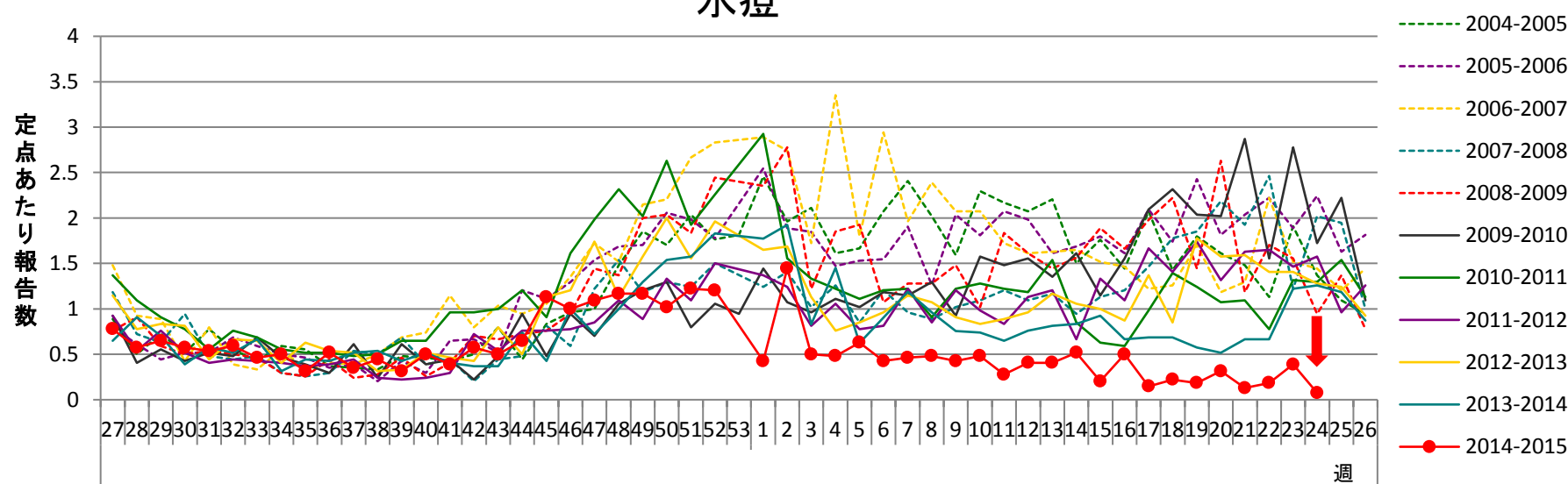
分類	疾病名	2015		2014 昨年	疾病名	2015		2014 昨年	疾病名	2015		2014 昨年
		今週	累計			今週	累計			今週	累計	
一類	エボラ出血熱	－	－	－	クリミア・コンゴ出血熱 ペスト	－	－	－	痘そう マールブルグ病	－	－	－
	南米出血熱	－	－	－		－	－	－		－	－	－
	ラッサ熱	－	－	－		－	－	－		－	－	－
二類	急性灰白髄炎	－	－	－	結核 中東呼吸器症候群	2	142	384	ジフテリア 鳥インフルエンザ(H5N1)	－	－	－
	重症急性呼吸器症候群	－	－	－		－	－	－		－	－	－
	鳥インフルエンザ(H7N9)	－	－	－		－	－	－		－	－	－
三類	コレラ	－	－	－	細菌性赤痢 パラチフス	－	1	－	腸管出血性大腸菌感染症	1	4	71
	腸チフス	－	－	－		－	－	－		－	－	－
四類	E型肝炎	1	2	2	ウエストナイル熱 黄熱 回帰熱 狂犬病 重症熱性血小板減少症候群 ダニ媒介脳炎 つつが虫病 鳥インフルエンザ 日本紅斑熱 鼻疽 ヘンドラウイルス感染症 マラリア リッサウイルス感染症 レジオネラ症	－	－	－	A型肝炎 オウム病 キャサヌル森林病 コクシジオイデス症 腎症候性出血熱 炭疽 デング熱 ニパウイルス感染症 ハンタウイルス肺症候群 ブルセラ症 発しんチフス 野兎病 リフトバレー熱 レプトスピラ症	－	6	8
	エキノコックス症	－	－	－		－	－	－		－	1	－
	オムスク出血熱	－	－	－		－	－	－		－	－	－
	Q熱	－	－	－		－	－	－		－	－	－
	サル痘	－	－	－		－	－	2		－	－	－
	西部ウマ脳炎	－	－	－		－	－	－		－	－	－
	チクングニア熱	－	－	－		－	－	2		－	－	1
	東部ウマ脳炎	－	－	－		－	－	－		－	－	－
	日本脳炎	－	－	－		－	－	4		－	－	－
	Bウイルス病	－	－	－		－	－	－		－	－	－
	ベネズエラウマ脳炎	－	－	－		－	－	－		－	－	－
	ポツリヌス症	－	－	－		－	－	－		－	－	－
	ライム病	－	－	－		－	－	－		－	－	－
	類鼻疽	－	－	－		－	9	32		－	－	－
	ロッキー山紅斑熱	－	－	－		－	－	－		－	－	－
五類	アメーバ赤痢	－	10	12	ウイルス性肝炎*3 クリプトスポリジウム症 後天性免疫不全症候群 侵襲性髄膜炎菌感染症 先天性風しん症候群 破傷風 風しん	－	4	7	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染 クロイツフェルト・ヤコブ病 ジアルジア症 侵襲性肺炎球菌感染症 梅毒 バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染 麻しん	－	18	12
	急性脳炎*4	1	7	9		－	1	－		－	－	1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	－	－	3		－	11	21		－	－	1
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	－	1	2		－	－	－		－	20	27
	水痘(入院例に限る。)	－	－	6		－	－	－		－	8	21
	播種性クリプトコックス症	－	1	1		－	－	1		－	－	－
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	－	－	2		－	－	2		－	－	6
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	－	－	－		－	－	－		－	－	－



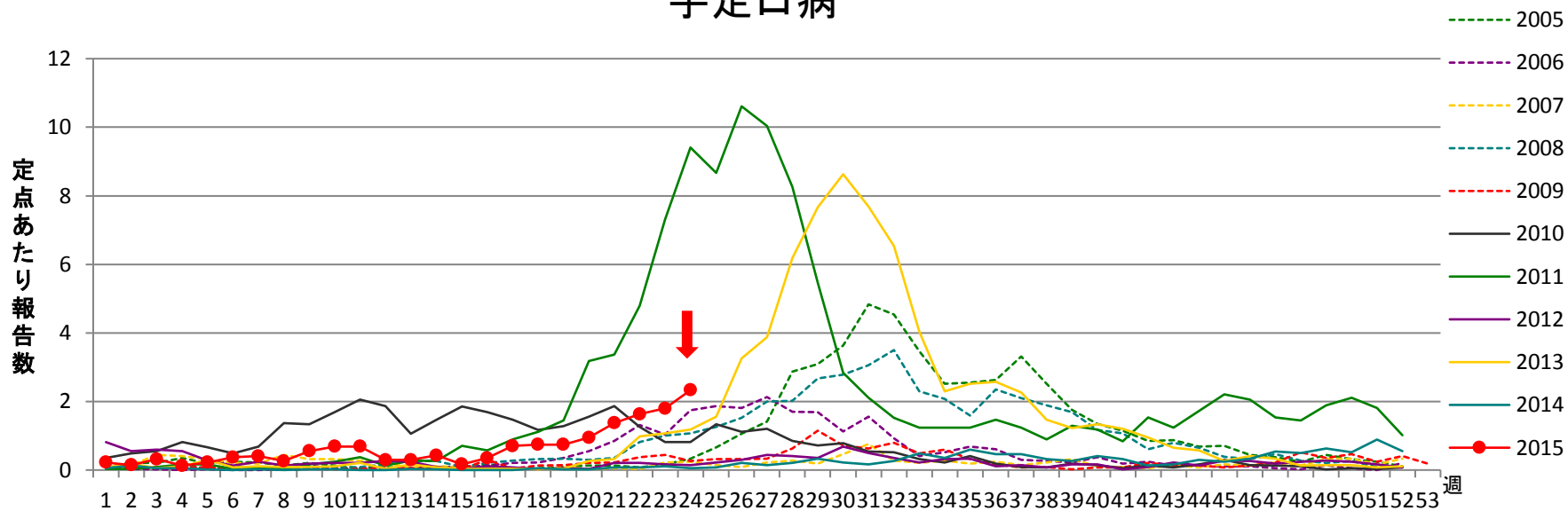
感染性胃腸炎



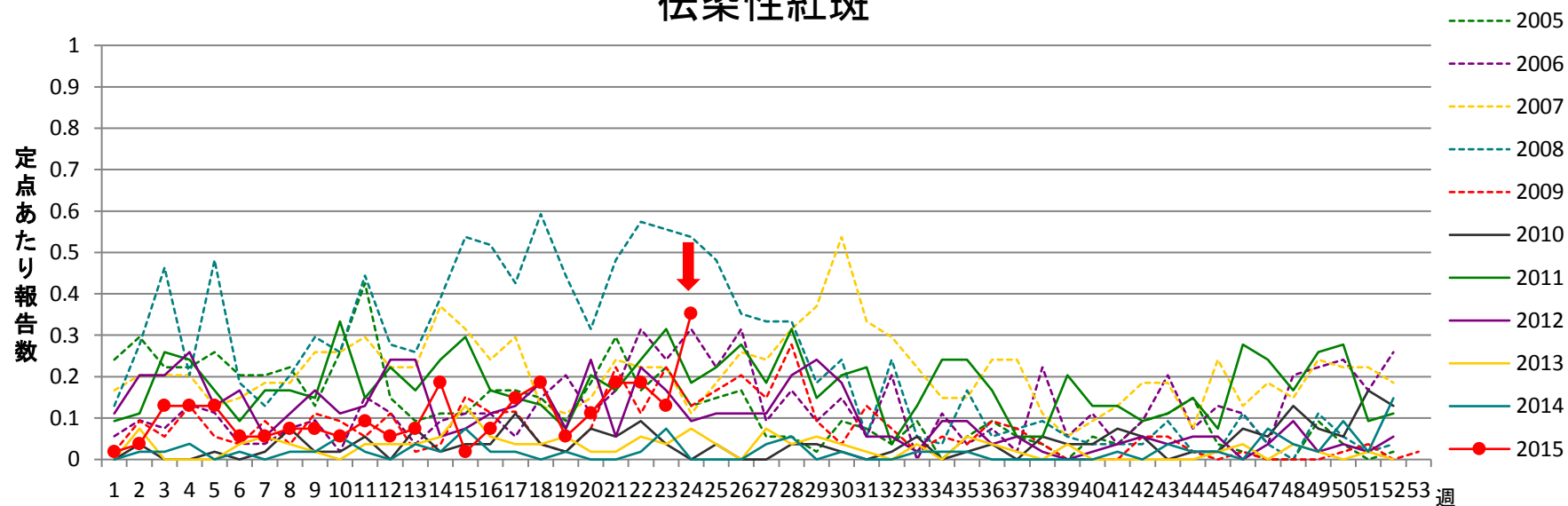
水痘



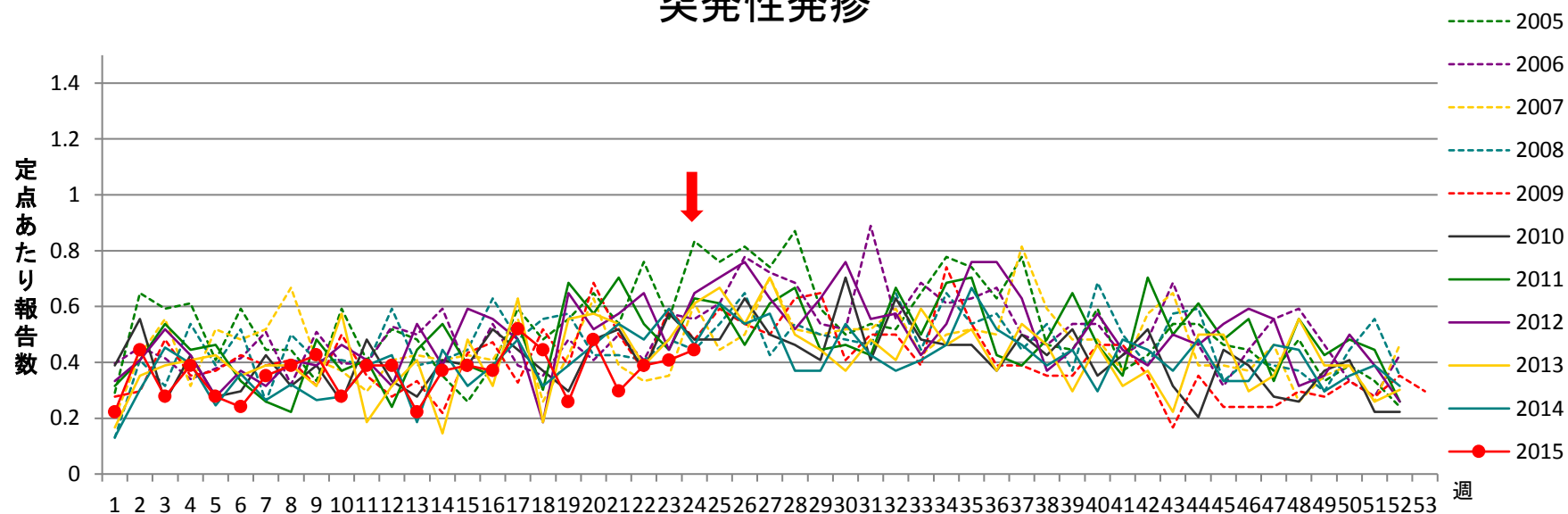
手足口病



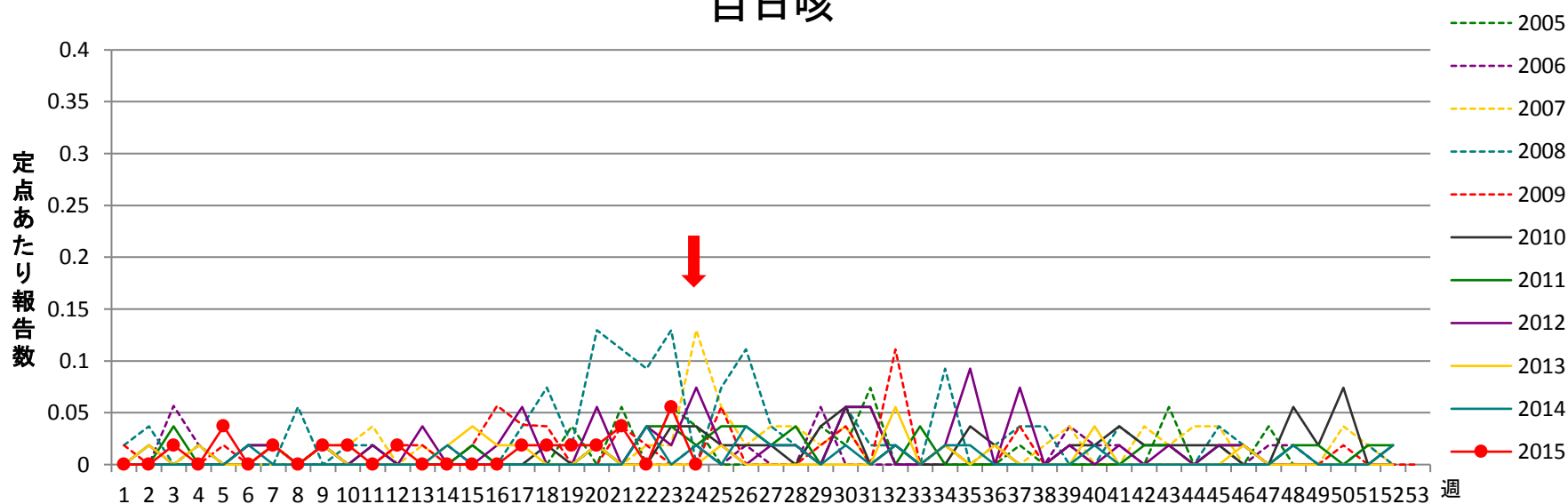
伝染性紅斑



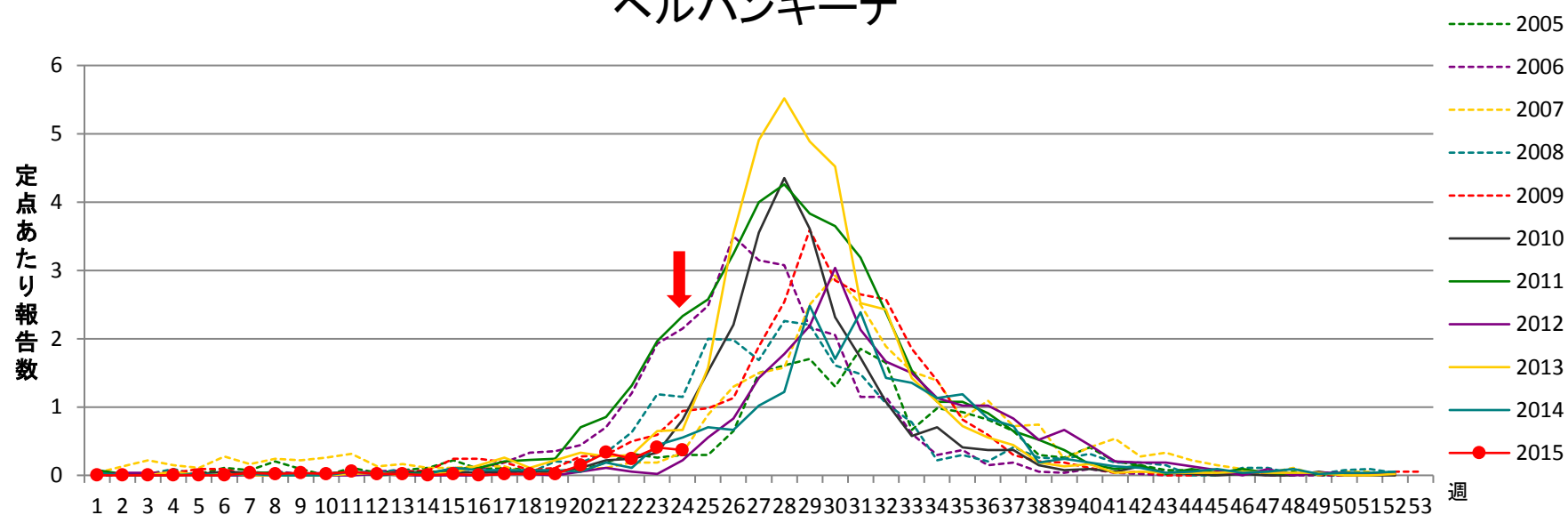
突発性発疹



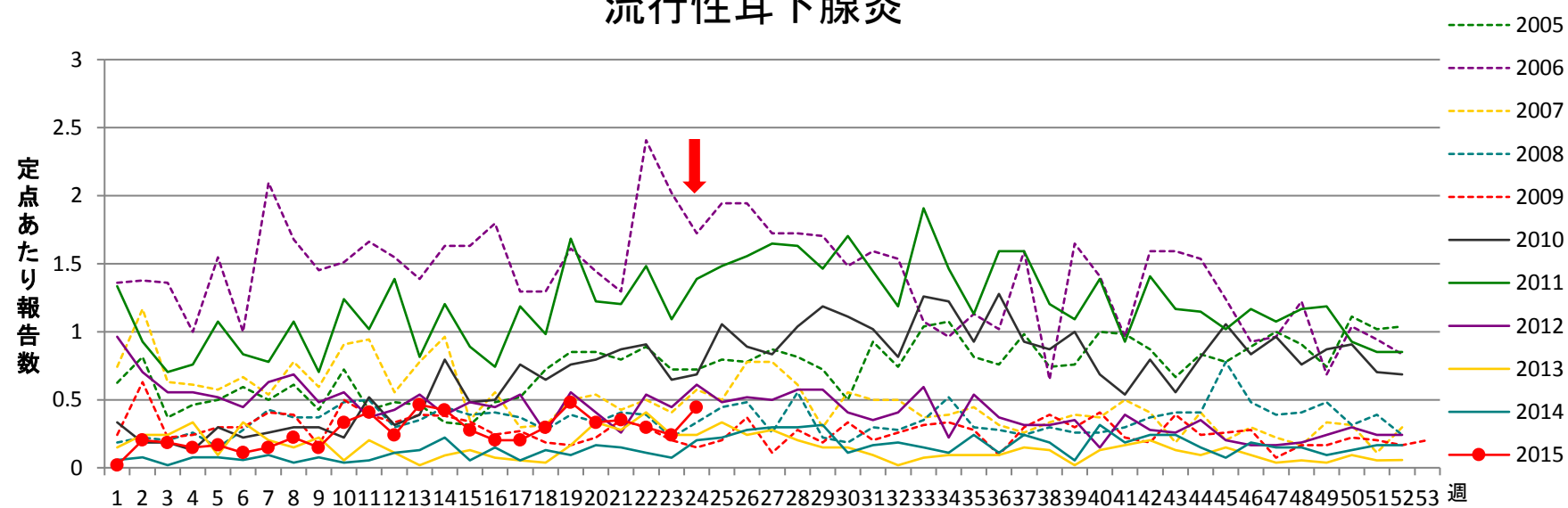
百日咳



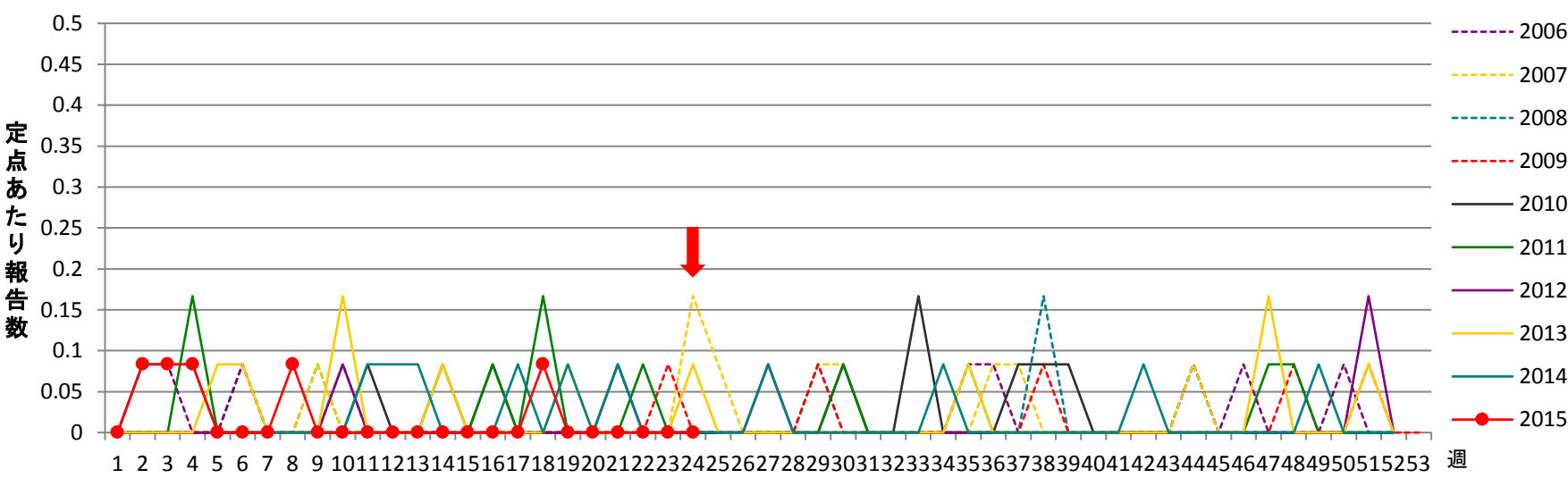
ヘルパンギーナ



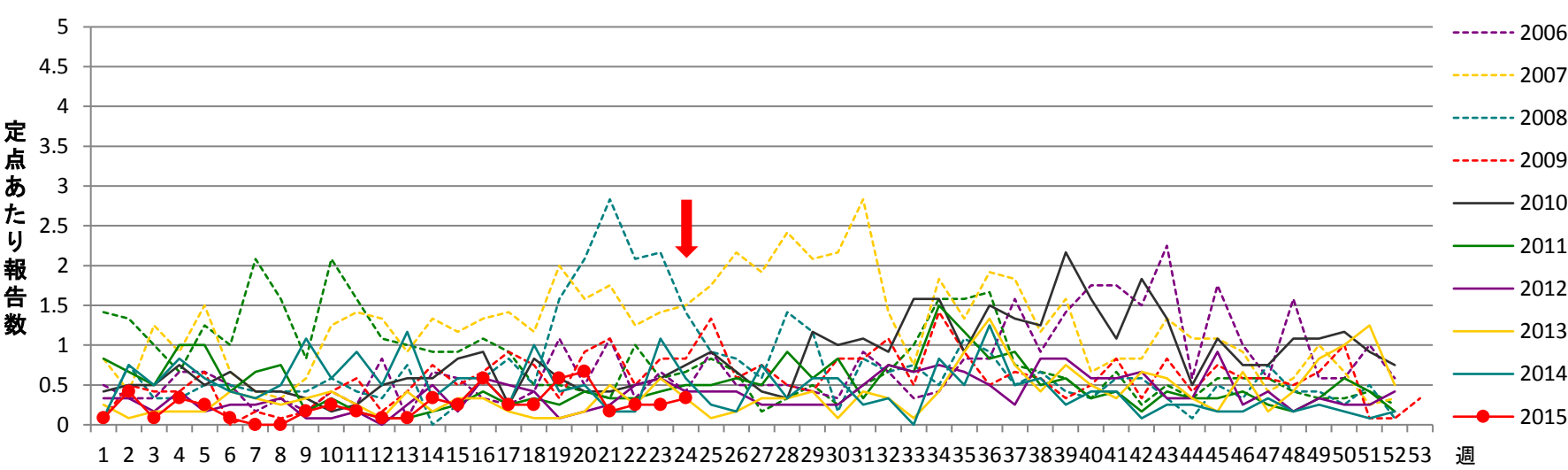
流行性耳下腺炎



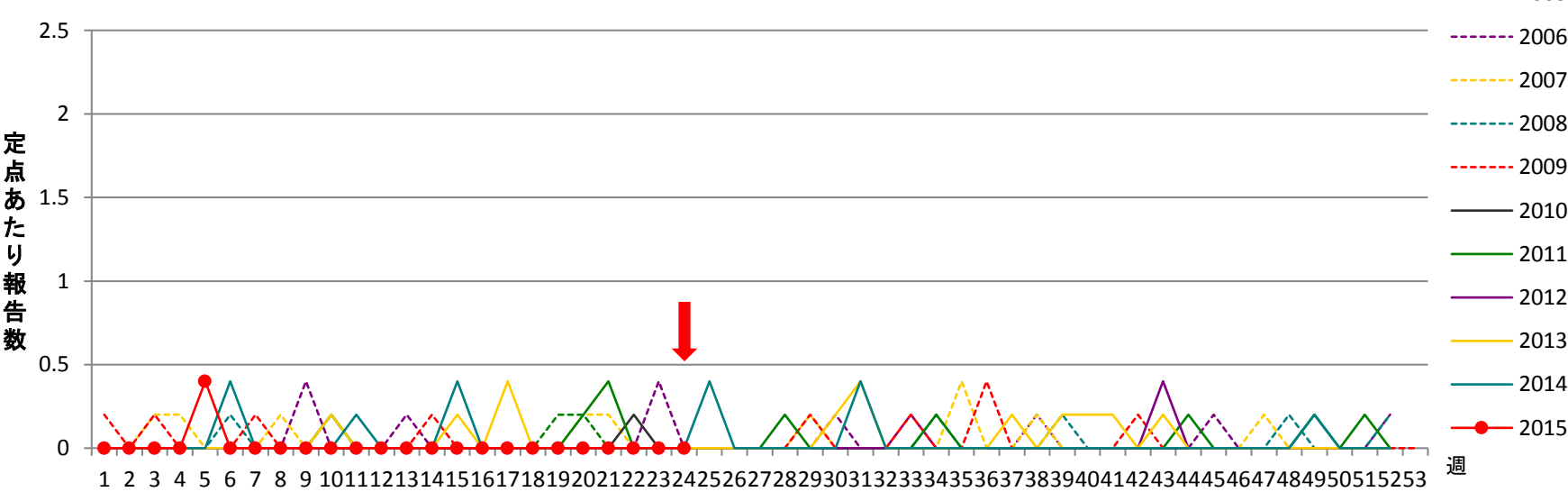
急性出血性結膜炎



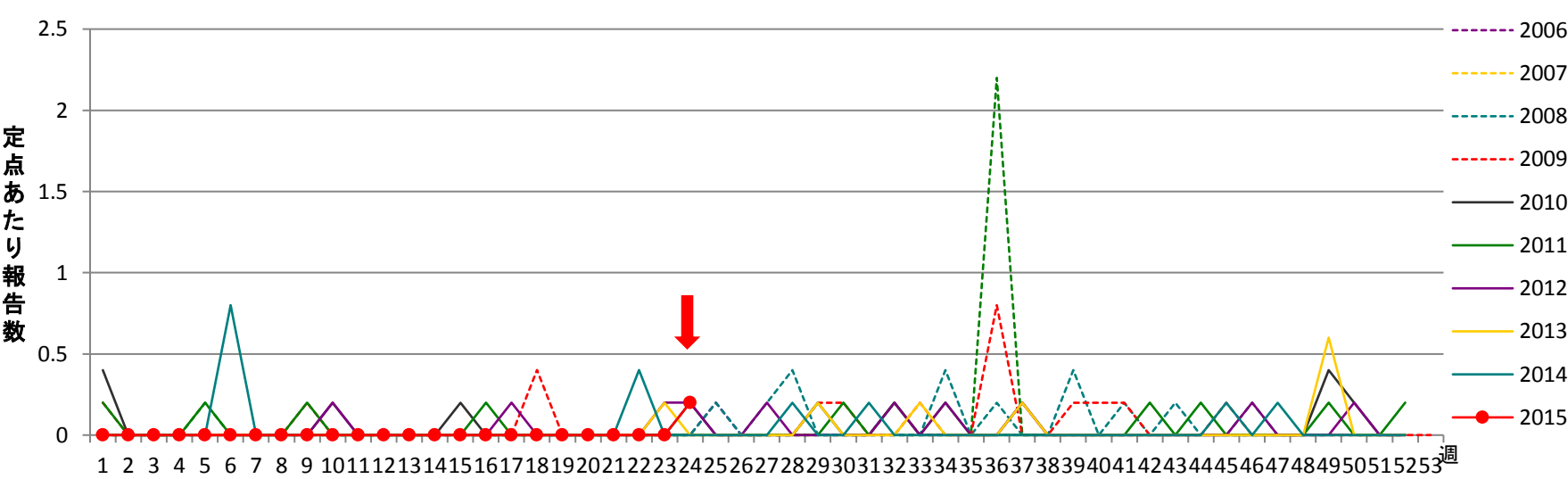
流行性角結膜炎



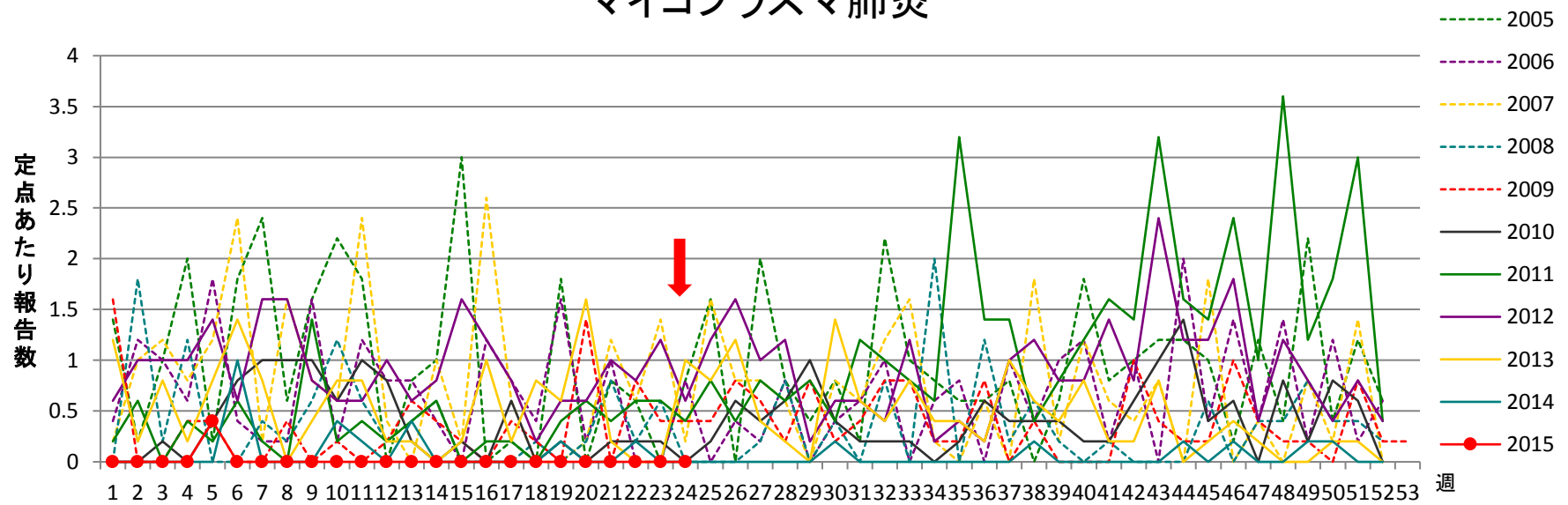
細菌性髄膜炎



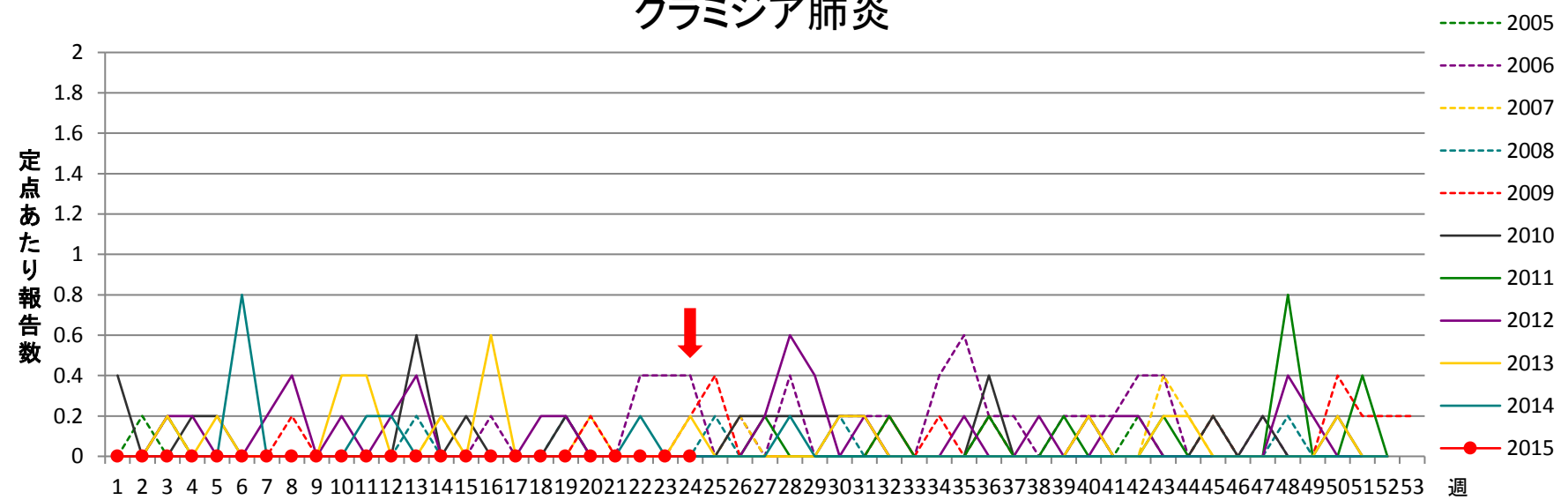
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

